

## 韓国

### マクロ経済指標の動き

2000年第二四半期のGDPは前期比1.1%の伸びにとどまった。これは前年同期の4.1%を大きく下回り、昨年来の高い成長はようやくかげりを見せ始めた。一方、失業率は低下を続け7月には季節調整値で3.7%まで下がっている。

為替レートは1ドル=1100ウォン台で安定した動きを示している。年初に赤字化が懸念された貿易収支も、第二四半期には輸出の増加によって47億ドルの黒字となった。生産者物価、消費者物価は足元でやや上昇みではあるが、通貨危機以前のインフレ率よりは低い水準にある。

韓国経済の現状をマクロ指標から見れば、通貨危機からの急激な回復過程は終了しつつあり、持続的な安定成長への移行が期待される状況といえよう。安定成長のシナリオが実現するためには金融面のリストラクチャリングが不可欠といえる。しかし、8月に発表された30大財閥の連結ベースの債務額を見ると三星など少数の例外を除き、ほとんどの財閥で負債比率（負債/自己資本）が200%を超えている。企業の過剰債務問題、すなわち金融機関側から見れば不良債権問題は、今後も韓国経済に重く押し掛かっていると考えられる。

### 迷走する現代グループ

韓国の大企業のほとんどは“財閥”と呼ばれる家族所有の企業集団に属している。財閥は多くの産業分野に系列企業を展開し、必要に応じてグループ内で資金の融通や債務保証を行ってきた。これが不効率な企業を温存し、グループ全体の負債比率を高める原因となってきた。最大の財閥である現代グループの近況は、韓国財閥の持つ本質的課題を浮き彫りにしている。

現代グループの中核企業であり、持株会社機能を併せ持つ現代建設は、5月に資金不足が表面化した。これを契機として取引金融機関の支援を受けるために、創業者の鄭周永氏、その五男でグループ会長の夢憲氏、次男で現代自動車会長の夢九氏の三者がグループの経営から身を引くことが対外的に表明された。しかしその後、現代自動車グループを率いる夢九氏が引退を拒否、兄弟間の対立が表面化、周永氏も所有する現代自動車の株式の売却を先伸ばしするなど、事態は混迷した。8月に入り、ようやく周永氏の自動車株売却が実施され、自動車グループの分離が実現した。

分離した現代自動車グループは現代自動車、起亜自動車などの自動車関連企業の外、現代鋼管、仁川製鉄などの鉄鋼部門も含む。グループの規模は三星、第二位となる現代の本体、L G、S Kに次ぐ韓国第五位の企業集団となる。また今後2002年までには、現代重工業グループの現代からの分離も予定されている。本体グループには建設、電子、商船、証券などが残る見通しであるが、これらの企業も生き残りのために、大幅なリストラが必要といわれている。北朝鮮出身の周永氏が力を入れてきた、金剛山観光をはじめとする対北事業にも大きな影響が出ると考えられる。

このような不透明な家族経営の弊害は、程度の差こそあれ他の財閥でも存在する。一方で通貨危機以降、韓国企業の外国人株主比率は大きく高まっている。海外の投資家は企業経営の健全性と透明性を重視する。したがってもし市場で透明性が不十分と判断された場合、企業の資金調達には困難となり、存続が不可能となるケースも生じよう。現代グループの直面した危機は、韓国の資本主義の縮図とも言える。

(ERINA調査研究部研究主任 中島朋義)

	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	99年7-9月	10-12月	00年1-3月	4-6月	2000年5月	6月	7月
国内総生産(%)	8.9	6.8	5.0	6.7	10.7	3.3	2.8	1.8	1.1	-	-	-
最終消費支出(%)	8.2	7.2	3.2	9.8	8.5	1.9	2.6	2.0	1.1	-	-	-
固定資本形成(%)	11.9	7.3	2.2	21.2	4.1	1.5	2.5	19.0	2.5	-	-	-
製造業生産指数(%)	12.0	8.6	5.2	7.5	25.0	7.1	7.3	2.3	-	5.9	-	-
失業率(%)	2.0	2.0	2.6	6.8	6.3	5.9	4.9	4.4	3.9	3.9	3.8	3.7
貿易収支(百万USD)	4,444	14,965	3,179	41,627	28,716	6,923	6,776	2,456	4,748	1,951	2,279	-
輸出(百万USD)	125,058	129,715	136,164	132,313	143,686	35,088	42,602	39,322	43,518	14,678	15,309	14,525
輸入(百万USD)	135,119	150,339	144,616	93,282	119,752	29,759	35,667	38,821	39,773	13,275	13,158	13,701
為替レート(ウォン/USD)	771	805	951	1,399	1,190	1,194	1,174	1,126	1,116	1,120	1,119	1,115
生産者物価指数(%)	4.7	3.2	3.9	12.2	2.1	1.9	0.4	2.1	1.9	1.2	2.6	2.9
消費者物価指数(%)	4.5	4.9	4.5	7.5	0.8	0.7	1.3	1.5	1.4	1.1	2.2	2.9

(注) 失業率は水準、生産者物価指数、消費者物価指数は対前年同期比伸び率、その他のパーセンテージ表示系列は前期比伸び率

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、製造業生産指数、失業率は季節調整値

貿易収支はIMF方式、輸出入は通関ベース

(出所) 韓国銀行、韓国統計庁